

## 【報告】

平成27年度三商大図書館連携企画展示「Library supports 三商ゼミ」の実施報告

中山知士（学術情報課雑誌情報係）

一橋大学学術・図書部

### 1. はじめに

大正末期から昭和初頭にかけて高等商業学校から商科大学に昇格<sup>1</sup>した、現在の一橋大学、神戸大学、大阪市立大学の3大学は「三商大」と称されてきた<sup>2</sup>。三商大の社会科学系ゼミによるテーマ別の討論会が「三商ゼミ」であり、昭和26年の開始以来、毎年3大学が会場を持ち回りで開催しており、平成27年度は神戸大学を会場として11月28日（土）から29日（日）にかけて行われた<sup>3</sup>。

3大学の図書館である一橋大学附属図書館、神戸大学附属図書館、大阪市立大学学術情報総合センターでは、平成27年度の三商ゼミ開催期間に合わせ、三商大図書館連携企画展示として「Library supports 三商ゼミ」を実施した。三商ゼミにスポットをあてた展示、3大学図書館の合同企画は初めての試みであり、実施により得られたことも多い。本稿では展示に至る経緯や準備、本学での実際の展示内容を中心に報告する。

三商ゼミの正式名称は「三大学学生研究討論会」だが、本学広報誌『HQ』での記述にならない、展示及びその企画では通称である「三商ゼミ」を使用したため、本報告においてもその通称を用いる。なお、三商ゼミの歴史については『HQ』の特集記事に詳しいため、参照していただきたい<sup>4,5</sup>。

### 2. 企画展示開催の経緯

今回の企画は、大阪市立大学学術情報総合センターから、3大学図書館の連携による展示開催の提案を受けたことに始まる。昨年度の三商ゼミ会場校である大阪市立大学では、学生の活動をサポートする企画として11月に三商ゼミにスポットをあてた展示が企画されていた。展示の内容は三商ゼミに関連する資料やグッズ、他の2大学を知るための資料等が予定されており、この内容を素案として、8月から10月にかけて、本学及び神戸大学に対して連携企画の実施が提案された。両大学が提案を了承することで実現に向けて動き出したが、すでに大阪市立大学で展示が企画されていたことと、3大学で準備に係る期間や展示スペースの広さも異なることが予想されたことから、連携企画の内容は「実際の三

商ゼミ開催期間前後に、ある程度の内容、デザインを共通化した展示を行う」ことが相互に確認された。

### 3. 準備における各大学の分担

具体的に共通化する内容としたのは、まず各大学図書館で所蔵する三商ゼミ及び3大学に関する資料を展示に含めることである。すでに大阪市立大学で該当資料の展示候補がリストアップされていたため、本学及び神戸大学ではそのリストをもとにしながら、その他の自館の所蔵資料も適宜追加することとした<sup>6</sup>。三商ゼミの歴史については、前述の本学広報誌『HQ』の特集記事が詳しいため、記事のPDFデータを3大学で共有し、印刷したものを、本学と神戸大学ではパネル化し、大阪市立大学では展示ケースで展示して、共通資料として使用することとなった。

また、共通する資料として各大学及び図書館の概要やパンフレットも相互に交換し、展示に含めることにした。本学から2大学に対しては、最新の大学概要、入試用大学案内、図書館概要を送付し、2大学からもそれぞれ該当する資料等が送付された。

資料以外で共通に展示スペースに掲示するものとして、各大学において三商ゼミの代表になっている学生のコメントをもらって、ポスターやパネルにしてはどうかという案が出たため、今年度の会場校となる神戸大学が、三商ゼミに対する3大学の各代表学生の意気込みのコメントと写真を準備した。

デザインの共通化については、今回の企画展示のために各大学が作成する各種資料、チラシ、ポスターに使用できるようなロゴを作成することになり、本学が担当した。3大学の図書館の写真を使用した3種類のロゴ(図1~3)を作成したが、作成の過程で、それまで仮称で呼ばれてきた企画展示の名称が「Library supports 三商ゼミ ~三商大図書館連携企画展示~」となった。ロゴは写真や文字については固定の配置とせず、各大学の作成資料の配置スペースに応じて、適宜調整を行って使用してよいことにした。



図1. 企画展示ロゴ1



図2. 企画展示ロゴ2



図3. 企画展示ロゴ3

#### 4. 本学での展示

本学では、平成27年11月18日（水）から12月13日（日）にかけて、附属図書館雑誌棟1階スペースで展示を開催した。大阪市立大学から提案された企画を了承してから、学術情報課職員の有志で企画展示チーム<sup>7</sup>を作り、本学での展示内容の詳細検討から展示の準備、開催までを担当した。

##### 4.1. 三商ゼミ代表学生との打ち合わせ

展示内容によらず、三商ゼミにスポットをあてた展示を開催するにあたっては、実際に参加する学生の理解と協力は欠かせないと考え、学生自治会の学生から、今年度の本学の三商ゼミ代表である社会学部の学生を紹介してもらった。学生との打ち合わせでは、今年度の三商ゼミの概要や本学からの参加予定ゼミ等について話を聞いたが、今年度は会場が神戸大学ということもあるのか、本学からの参加は5ゼミにとどまることが判明した。結果的に3大学で60以上のゼミが参加したことを考えると、本学の参加ゼミ数は極端に少ない<sup>8</sup>。企画展示チーム発足直後、本学での展示の目的は、三商ゼミというイベントや、その関連資料が図書館に所蔵されていることを学内に周知することだったが、代表学生との打ち合わせを終えた時点で、会場が本学となる来年度に向けて少しでも盛り上げようという目的も加わった。

#### 4.2. 参加ゼミへのインタビューと回答内容のパネル化

企画展示チームでは本学からの参加ゼミが少ないことを逆に活かして、本学の展示のメインとして、参加5ゼミの学生と教員にインタビューを実施し、その内容を1ゼミ1パネルにして展示することにした。

ただし、三商ゼミの開催（11月28日～29日）前の展示開始を目指していたが、この時点ですでに10月中旬であり、学生や教員へのインタビューに要する時間を考慮し、インタビュー項目は①三商ゼミの魅力について、②三商ゼミで取り上げるテーマについて、③参加学生の意気込み、の3点とした。その他に学生や教員の写真等もパネルに含めたいと考え、事前に図4のような想定完成パネルひな形を作成し、参加ゼミの学生、教員に送付してから、インタビュー及び写真撮影を実施した。当初はインタビュー項目のうち①、②は教員の回答を反映する予定だったが、ゼミによってはその項目も学生に回答してもらったところもある。

ゼミにより回答内容の量に差が出たため、それぞれ若干のレイアウト変更をしながらも、おおむね想定ひな形のとおりレイアウトしたパネルを完成させることができた。短期間に快くインタビューに応じ、また写真撮影をさせてくれた各ゼミに感謝したい。

三商ゼミ 参加ゼミ紹介  
○○ゼミ (△△学部)

先生写真  
ゼミ集合写真  
ゼミ基本情報  
・現在の学生数  
・三商ゼミ参加回数  
・戦う神戸・阪市大ゼミ etc

三商ゼミの魅力とは？

三商ゼミで取り上げるテーマについて教えてください。

参加する学生さん、意気込みをお聞かせください。

学生写真  
○○さん (○年)  
・三商ゼミ参加の写真  
・普段のゼミ活動写真  
etc

図4.各ゼミの想定完成パネルひな形

#### 4.3. 展示開催期間と展示場所の決定

三商ゼミの開催が11月28日（土）、29日（日）であることから、展示の開始は早ければ早いほど効果があると考え、各種の事前広報期間も考慮して11月18日（水）を開始日とした。また、小規模な展示とはいえ、開催後も一定期間展示することもイベントの周知という観点で意味があると考え、展示終了は三商ゼミ開催2週間後の12月13日（日）とした。

この段階で、参加5ゼミのパネルは1ゼミにつきA2サイズで作成することを考えていたため、所蔵資料も含めた展示全体の構成を勘案した結果、図書館内では展示場所として、雑誌棟1階のスペースが最適であると判断した。雑誌棟1階スペースは、過去に開催された展示<sup>9,10</sup>の開催場所としても使用され、実際に足を止めてパネルや資料に目を留めている学生を目にしていたことも大きな理由である。

#### 4.4. 展示物の完成と配置

本学の展示のメインとなる三商ゼミ及び3大学に関する図書館所蔵資料と、参加5ゼミのパネルの準備が進んだところで、展示のレイアウトを考えながら、その他の展示物として、『HQ』の特集記事、3大学の大学及び図書館の概要やパンフレットを準備していった。

附属図書館本館から展示場所である雑誌棟1階スペースに向かう際に最初に目に飛び込むものとして、展示の挨拶になるパネルを配置したいと考え、ロゴとともに、神戸大学が準備した各大学の代表学生の写真とコメントを組み合わせたパネル（写真1）を作成し、イーゼルを使用して目立たせるように配置した。



写真1. 展示挨拶パネル

展示資料では、まず三商ゼミというイベントのことやその歴史についての説明が必要と考えたため、前述の『HQ』の特集記事を配置した。その際、『HQ』の冊子そのものを置いて手にとっても読んでもらうことも考えたが、特集記事がちょうど4ページだったこともあり、1号分を1パネルに収め、展示挨拶パネルの先の壁面に展示することにした（写真2）。



写真2. 『HQ』特集記事のパネル化

展示資料のうち、図書館所蔵資料に対しては、ロゴも使用した共通のデザインの帯かけを施して展示資料リストとともに配置し、三商ゼミというイベントに関連していることがわかるようにした（写真3）。



写真3. 図書館所蔵資料の装備と配置

以上のように展示物を準備して、配置を完了させた(写真4)。所蔵資料や各大学の概要、パンフレット等の冊子は長机に置き、パネルはイーゼルの使用や壁面貼付の形で配置した。



写真4. 展示全景

#### 4.5. 広報

展示期間前及び展示期間中に、各種の広報を行った。図書館 Web サイトでのお知らせ<sup>11</sup>、大学教職員が閲覧できる Web 上のグループウェア、附属図書館広報誌『BELL』への掲載<sup>12</sup>、図書館 Facebook ページ<sup>13</sup>や Twitter<sup>14</sup>での広報がその主なものである。また、展示場所の周知のために、展示期間中は図書館本館エントランスゲートの先に、展示場所への誘導パネルも設置した(写真5)。



写真5. 展示場所への誘導パネル

## 5. 成果と課題

展示は三商ゼミの開催期間の前後、一ヶ月弱という短い期間だったが、三商ゼミや3大学の関連資料等が展示場所で手に取られている光景を何度も目にすることができた。展示についてのアンケートは実施しなかったが、資料展示の目的である図書館所蔵資料の周知はある程度果たすことはできたように思う。しかし、今回の企画展示は、それ以外にも様々なことが得られたと考えている。

まず何より、神戸大学附属図書館、大阪市立大学学術情報総合センターと、今後も三商ゼミというイベントを共通項として、図書館同士で様々な連携ができる可能性を生み出したことである。平成28年度以降も、三商ゼミに関して展示やその他の連携した企画が実施できればと思う。

三商ゼミについても、実態をある程度把握できたことは意義があると考えている。

『HQ』の特集記事等でイベント自体の紹介は行われていたが、三商ゼミ代表学生や、参加ゼミの学生、教員と対話することで、学生主体でイベントが運営されてきたことや、複数の学生が三商ゼミ担当を務める2大学と違い、本学では学生自治会から選ばれた一人の学生が三商ゼミの担当となっていることなど、これまで知ることのなかった運営の実態や、3大学間の違い等を知ることができた。三商ゼミに限らず、学生が関係しているイベントを良く知ること、またその過程で学生とコミュニケーションをとることで、既存の図書館サービスの紹介や、学生の要望を汲み取った新たな図書館サービスの検討につなげられる可能性もある。

また、今後も続いていくであろう三商ゼミの実態を、展示という形で示せたことも大きい。本学の展示資料の中に『三大学学生研究討論会報告書』があるが、昭和期には3大学の準備委員会を持ち回りで編集をしていたことがわかる。近年はこのような形での記録は残っていないようであるし、インターネット上でも近年の三商ゼミについては断片的にしかり得ない。少なくとも、今年度の本学からの参加5ゼミについては、討論するテーマや相手ゼミについての情報を展示という形で示すことができた。このことは今後の本学の三商ゼミ代表学生に対するサポートにもなると思われる。

一方で、来年度以降に向けて検討が必要と思われることもあったため、挙げておきたい。

一つは、展示の内容である。今年度は参加ゼミが5つだったため、学生や教員にインタビューを行い、それをパネル化して展示物としたが、来年度は会場校が本学となるため、

本学の参加ゼミ数が増加することが予想される。今回と同様の方法でインタビューし、同様の内容でパネルを作成することは難しいかもしれない。しかし展示物として図書館所蔵資料だけを並べるだけでは、あまり意味はないと思われるし、何より「Library supports」という今年度の展示タイトルにはそぐわない。展示内容を検討する際には、担当職員の新たなアイデアが求められてくるだろう。

二つ目は展示場所についてである。本学図書館には規模の大きい常設展示、企画展示が行われる展示室があるが、今回のような小規模の展示を行うスペースの必要性を感じた。今回の展示場所である雑誌棟1階スペースは、図書館に入館後すぐに目につく場所ではない。いかに人目につきやすく、フレキシブルな展示が可能なスペースを作っていくかについても検討が必要だろう。

今年度は初の試みということもあり、すべて手探りの状態での展示となったが、上述したとおり、意義も見いだせた。来年度の三商ゼミの会場校は本学となるので、何らかの形でまた3大学で連携した企画ができればと期待している。最後に、連携企画を提案してくださった大阪市立大学、提案に乗って今回の企画を進めてくださった神戸大学に感謝の意味を込めて、両大学の展示風景（写真6,7）を紹介して報告の結びとしたい。



写真6. 大阪市立大学学術情報総合センターの展示風景



写真7. 神戸大学附属図書館の展示風景

- 1 一橋大学は大正9年、神戸大学は昭和4年、大阪市立大学は昭和3年に、それぞれ前身の東京商科大学、神戸商業大学、大阪商科大学へ昇格している。
- 2 橋本俊詔. 三商大 東京・大阪・神戸 一日本のビジネス教育の源流. 岩波書店, 2012, 233p.
- 3 “第65回三商ゼミ発表会”. 神戸大学.  
[http://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/event/2015\\_11\\_28\\_01.html](http://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/event/2015_11_28_01.html) (2016-02-15 参照)
- 4 “新制大学が継承する三商大の伝統”. HQ. 2010, vol. 27, p.25-27.  
[http://www.hit-u.ac.jp/hq/vol027/pdf/hq27\\_24-27.pdf](http://www.hit-u.ac.jp/hq/vol027/pdf/hq27_24-27.pdf) (2016-02-15 参照)
- 5 “60年の伝統を学生たちが守る「三商ゼミ」の今”. HQ. 2011, vol. 29, p.22-25.  
[http://www.hit-u.ac.jp/hq/vol029/pdf/hq29\\_22-25.pdf](http://www.hit-u.ac.jp/hq/vol029/pdf/hq29_22-25.pdf) (2016-02-15 参照)
- 6 本学の展示資料リストは図書館Webサイトでも公開した。  
[http://www.lib.hit-u.ac.jp/uploads/sansho\\_list.pdf](http://www.lib.hit-u.ac.jp/uploads/sansho_list.pdf) (2016-02-15 参照)
- 7 学術情報課長、課長代理、電子情報係員、雑誌情報係員の4名
- 8 一橋大学広報誌『HQ』（vol.29）によると、本学で開催された2010年の三商ゼミには、本学からは16ゼミが参加している。
- 9 “2015日・EUフレンドシップウィーク展示を開始します”. 一橋大学附属図書館  
[http://www.lib.hit-u.ac.jp/news\\_detail/n/20150622\\_1/](http://www.lib.hit-u.ac.jp/news_detail/n/20150622_1/) (2016-02-15 参照)
- 10 “一橋大学連携企画（男女共同参画推進室・附属図書館） 男女共同参画推進フェアを開催しています”. 一橋大学附属図書館.  
[http://www.lib.hit-u.ac.jp/news\\_detail/n/20150824/](http://www.lib.hit-u.ac.jp/news_detail/n/20150824/) (2016-02-15 参照)
- 11 “三商大図書館連携企画展示「Library supports 三商ゼミ」を開始しました（11月18日～12月13日）”. 一橋大学附属図書館.  
[http://www.lib.hit-u.ac.jp/news\\_detail/n/20151119/](http://www.lib.hit-u.ac.jp/news_detail/n/20151119/) (2016-02-15 参照)

---

<sup>12</sup> “Library supports 三商ゼミ ～三商大図書館連携企画展示～”. BELL. 2015, no. 137.

<http://www.lib.hit-u.ac.jp/uploads/bellno137.pdf> (2016-02-15 参照)

<sup>13</sup> 一橋大学附属図書館Facebookページ (Hitotsubashi University Library)

<https://www.facebook.com/hitotsubashi.university.library/posts/909672162431172> (2016-02-15 参照)

<sup>14</sup> 一橋大学附属図書館Twitter (@hito\_lib)

[https://twitter.com/hito\\_lib/status/667617998522314752](https://twitter.com/hito_lib/status/667617998522314752) (2016-02-15 参照)

[Report]

*Report on the 2015 joint exhibition of three university libraries: Hitotsubashi University, Osaka City University, and Kobe University*

Nakayama, Satoshi.

Serials Section, Library Affairs Division, Department of Libraries and Information, Hitotsubashi University